

# 実例から見る 画像投稿で起こりうる ネットトラブル



スマートフォンなどの身近なインターネット機器は、カメラ機能があるものが多く、自分で撮影した写真を気軽にインターネット上に投稿する人もいます。

今回は、写真の投稿から起こりうるトラブルを、実例をもとに考えてみましょう。

## 悪意が無くても「盗撮行為」に！？

今年度のネットパトロールでは、他人を撮影し、その写真をインターネット上に投稿している行為が数件検出されています。検出された投稿の中には、「（友人知人に）こういう人がいて危ない」というような、善意で注意を促すものもみられましたが、たとえ善意で行っていたとしても、それがトラブルに繋がることもあります。

## 盗撮行為に関するトラブル

今年の6月には、電車の中で痴漢の被害にあった女性が、加害者と思われる男性を盗撮した写真を自身のTwitterに公開したことで、無関係の第三者から女性の個人情報等がインターネット上にさらされ、誹謗中傷を受けるという事案が起りました。

たとえ「不適切なことをしている人を周りに知らせる」ためであったとしても、許可なく他人を撮影してインターネット上に公開することは「盗撮行為」であり、社会的には認められない行為となります。

## ご家庭での対応

子どもが生活の中で、どれくらいカメラ機能を使っているのか、改めて注目してみましょう。風景や動物を写すのであれば問題はありませんが、人がいるところにカメラを向けて撮影した写真をインターネット上に投稿していないでしょうか？「盗撮行為」が社会的に認められない行為だと理解していない子どもはほとんどいないと思いますが、写ってしまった知らない人の写真を公開するくらいなら何の問題もないと考えている場合があります。そのような場合でも写っている人は「勝手に撮影された！（盗撮された）」と感じるのだということを話し合う機会を作ってみましょう。



※事例は実際に検出された投稿をもとに、当資料のために作成したものです。